

実践編 Part-3 その6

さて、今月のお客様を紹介します。当店顧問税理事務所員の松山君。税理に関する相談役です。締め切りギリギリの来店で、しかも（ほぼ）スキンヘッドなので、フィッティングモデルにぴったりです。より詳しく解説していきましょう。



では、いつもの様に所見から

- 1、 テンプル幅がキツく、形状もおかしいので、顔の側面にストレスの無いように調整する。
- 2、 クリングスパッドの位置が高すぎるので、4～5ミリ下げる。
- 3、 モダンは、まったく合っていないので、落ち込み角、抱え込み角を耳介の付け根にトレースする。
- 4、 前傾角は、遠用（常用）であれば、デフォルトで良いでしょう。
- 5、 パッドの大きさは、そのままで許容範囲かと思いますが、もう少し大きなサイズの方がより安定すると思うので、交換する。

以上の点を特に注意しながら、調整していきましょう。

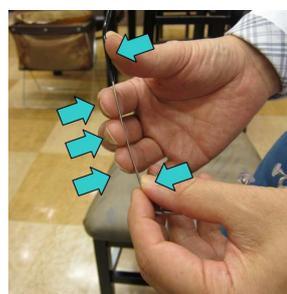
テンプル形状



未調整のまま、フレームを顔に掛けると、テンプレルのファーストタッチのあたりから、耳介の付け根の頂点あたりまでは食い込みます。これは絶対いけません。テンプル～モダンフィッティング抱え込み形状の原則は、顔に最初に触ったファーストタッチから、モダンエンドまで顔側面に均等なテンションで触っていることです。

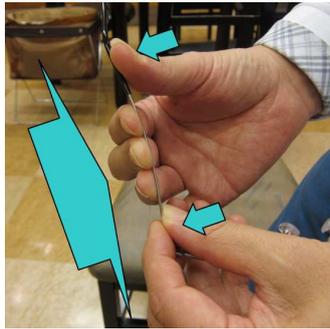


この写真を見ると、未調整のテンプル形状は、抱え込むようになっていて、このままでは、モダンエンドにいくにしたがって、かなり顔の側面のテンションが強くなってしまいます。

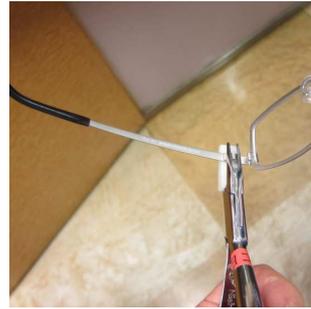


まずは、抱え込んでいるテンプル形状を調整して、ストレートに近くしましょう。

テンプル内側の智のあたりと、モダン合口あたりを支えにして、矢印方向にシゴイてやると、テンプル形状は直線的になっていきます。



大きく、3本の指を使って逆ぞりさせていきます。



ホールドして、そのまま開きます。



顔に乗せると、食い込みはだいぶなくなりましたが、まだ、テンプル幅自体がキツイ様です。



これで、テンプル幅、形状は、まあまあになりました。これからは、他のフレーム各所を調整していきましょう。

○クリングスのフィッティング

交換前



テンプル幅の開閉はニシムラ No.40 を使うお店が多いでしょうが、テンプルを開くヤットコは、No.642の方がおすすめ。ヤットコ先がフォーク状になっていて、抜群の安定感です。



交換後



• 大きさを比べてみる



丁番をしっかりとホールドします。



付属のパットでも、良さそうですが、さらに一回り大きなサイズの方が、ベストと思われるので、交換します。